

No. 6414
28
T. OKADA

山梨縣立農事試驗場報告

オウトウシャウジャウバへの研究 (豫報)

山梨縣立農事試驗場

昭和 9 年 1 0 月

序 言

本報告ハ櫻桃猩々蠅ノ研究成績ヲ登載セルモノナリ。

櫻桃栽培ニ於ケル本虫ノ被害ハ近年特ニ著シキモノアリ、之ガ防除ハ最モ緊要事ナリト信ズルヲ以テ、茲ニ、今日迄ニ於ケル研究成績ノ概要ヲ發表シ、大方ノ熟讀利用ヲ俟ツ次第ナリ。

昭和10年3月

山梨縣立農事試驗場長 小林 英 一

山梨縣立農事試驗場報告

オウトウシャウジャウバへの研究

技師 神澤 恒夫

目 次

I	緒 言	1
II	沿 革	2
III	屬種名並和名	3
III	形 態	4
	1. 成 虫	4
	2. 卵	6
	3. 幼 虫	7
	4. 蛹	7
V	經 過 習 性	7
	1. 發生回数並週年經過	7
	2. 成虫壽命調査	10
	3. 産卵數調査	12
	4. 卵期調査	12
	5. 幼虫期調査	13

6. 蛹期調査	13
7. 羽化より産卵までの日数調査	14
VI 習性	14
1. 櫻桃の熟度と産卵並に経過試験	15
2. 櫻桃の処理方法と産卵試験	16
3. 櫻桃の完全果と腐敗果との産卵比較試験	16
VII 寄主植物	16
1. 野外採集果實に於ける寄主調査	17
2. 寄主植物の調査並試験	17
VIII 櫻桃の被害歩合調査	17
K 食餌誘殺試験	18
X 誘殺器應用試験	20
XI 櫻桃の冷蔵と猩々蠅の生死との關係試験	21
1. 幼虫に對する試験	21
2. 卵に對する試験	21
XII 摘要	22
XIII 防除上の注意	23

【 緒 言

大正5年6月山梨縣東山梨郡鹽山町に於て、櫻桃に蛆害あるを知り、飼育の結果猩々蠅 (*Drosophila*) 屬の一種なるを確認せり。

依て翌年度より之が飼育を試み、又縣下各地に於て調査せるに、櫻桃以外の果實に寄生せるを認め、又富士岳麓の野生苺よりも其の幼虫を得、飼育の結果何れも同種なるを知れり、依りて文献に就き調査せるも該當のもの無かりき。

然れ共當時櫻桃の栽培は、縣下を通じ僅に數反歩に過ぎず、且つ其の後發生多からざりしと、場務の都合により、特に研究を爲さざりしも、山梨縣産櫻桃が、熟期の早き点に於て市場に歡迎せらるゝところとなり、益々有望視せらるゝに至りたる爲め、之が栽培も急激なる増加を來したる結果、一面蛆害も益々猖獗となり昭和5年頃には、山梨縣産櫻桃は蛆害多く、之を防除するに非ざれば、市場より驅逐せらるゝに至るべしとの聲を聞き、漸く世人の注意を惹くに至れり。加ふるに近時歐洲種葡萄の露地栽培をなす者漸次増加せるに、其の品種に依りては蛆害を蒙ること多く、調査の結果は同種の被害なるを知れり。然るに本種に關しては筆者の寡聞、未だ充分なる研究有るを知らず。依りて之れが生態の研究、防除方法の案出は、當業者の爲最も緊要なるべきことを認め、昭和6年度より些か之が研究を開始せり。

昭和9年7月筆者は山形、福島兩縣を視察するの機會を得たれば、本虫加害の狀況を調査せるに、當業者は翅斑實蠅と混同し居るも、其の被害の一般的にして而も多大なるを知り、又赤湯地方栽培の歐洲種露地葡萄は、袋掛を爲さざれば、全滅に至るの被害あるを聞き、本害虫の研究は一人本縣のみにあらず、本邦園藝業の爲め、頗る緊要なるを痛感せるが、本省に於ても此の研究に對し、本年度より援助を與へらるゝことゝ成りたる爲め、更に研究繼續の豫定なり。茲には從來施行せる概要を報告し、以て大方の參考に供せんとす。

本成績を報告するに當り、分類に就き、特に農林省農事試驗場昆虫部木下主任並に八木博士の援助を蒙りたり、記して感謝の意を表す。

Ⅱ 沿 革

櫻桃の果實に寄生する蛆には、別に翅斑蠅科 (Trypanecidae) に屬するものあり其の寄生部の同一なると、幼虫の似たるに依り、本種と混同せられたる場合多かりし如く、又一方猩々蠅にも多くの種あり、其等の食性に就ては、活物寄生と死物寄生との認識せざるもの多く、爲めに本種も死物寄生種と同様な食性を有するものと考へられ、一般の注意を惹かざりしが如し。今本邦に於て本種と思はるものに関し發表せられたる文献の大要を記せば下の如し。

1、大正6及7年狩谷精之氏は東北、北海道及山梨縣を視察せられ、山梨に於ては筆者同行し、何れも之が發生を認めらる。其の産卵狀況と卵期とに就き研究せられ世代は年15回位發生すとせられたり。

2、大正14年12月「昆虫世界」並に昭和2年11月「病虫害雜誌」に於て大石俊雄氏は櫻桃の熟果「黃玉」の採り残り「那翁」の盛り過ぎたる頃に被害多く、9月頃葡萄に加害す。翅に透明なるものと翅端に小褐斑を有するものとあるが、果して同種なるや否や不明である。年數回の發生であるが詳細なる研究がない。成虫態で越冬するものと思はれると報告せり。

3、昭和4年3月杉山昌治氏は其の著「櫻桃栽培法」に於て、櫻桃、葡萄、櫻グースベリー其の他各種腐敗果に寄生し櫻桃の成熟する頃果實に産卵し、孵化して果肉を喰害して大害をなすものなり。福島地方にては6月上旬、山形地方にては7月上旬、被害激甚にして7月上、中旬成熟の品種は年によりて殆ど全部被害を見ることあり。各種の腐敗果に寄生するを以て、詳細なる研究は未だ遂げられず。山形地方にては6月中、下旬より出現し、櫻桃に産卵し7月老熟して土中に入り蛹化し、次で羽化して葡萄に産卵し、10月より11月に至りて老熟して化蛹すと爲す。

4、昭和5年高橋獎氏は其の著「圖解園藝害虫駆除豫防法」に於て、經過習性不明であるが、冬は多分成虫で越冬す。熟果に小孔を穿ちて卵を産み入れ、世代期間は15日位にして卵より成虫となる如く、其の後他の果物で生活し、10月

頃葡萄を害する地方もあるとせり。

5、昭和4年8月名和梅吉氏は其の著「害虫防除寶典」に於て、山形、青森、兩縣下に産し、櫻桃及葡萄等の果實に加害す。成虫は「シヨウジョウバへ」に酷似し、1年數回の發生をなすものゝ如くなるも不明なりとせり。

6、昭和5年3月岡田東作氏は其の著「櫻桃の作り方」に於て、櫻桃の熟果に發生して大害をなすことあり。成虫にて越年し、年數回の發生をなし、6月頃櫻桃に産卵し、7月老熟して果外に出で蛹化し、秋9月下旬成虫出現し葡萄に産卵し10月中旬頃より11月上旬頃出て冬を越すとせり。

III 屬種名並に和名

本種が猩々蠅 (*Drosophila*) 屬の一種なることは、大正5年之を知りたるも、其の種名不明なりしを以て、昭和6年再び研究を開始するに當り、狩谷精之氏を煩はして、本種の標本を米國博物館スターテバント (A. H. Sturtevant) 氏次で昭和7年埃太利博物館ゾーダ (Duda) 氏に送りて、同定を乞ひたるも未だ回答に接せず。

其後日本昆虫大圖鑑に就て、スバキシヨウジョウバへ (*Leucophenga suzukii* Mats.) の櫻桃に寄生することを知り、本種と比較せるも該種とは其の屬を異にするのみならず、記載と一致せざる点多かりき。

依て本種の形態、食性、分布等に就き觀察を爲したるに、其の雌は兩翅に黒紋を有し、雌の産卵器は特別に發達して、能く生果の果皮を切りて産卵するに適し幼虫は活物寄生にして、富士、八ッ岳山麓其他至るところの山野に自生する、莓、櫻、胡頹子等の果實に多數寄生して、他の猩々蠅と食性を異にするを知れり。此れを文献に徴したるに其の習性、本種に該當するもの無かりしを以て、本種は恐らく本邦に棲息せる未知の一種ならんと思考するに至り、此れが研究を進めたり。

即ち松村松年博士は昭和6年日本昆虫大圖鑑367頁に於て、本種を *Leucophenga* 屬に入れ *L. suzukii* Mats. となし發表せられたれ共、下記の記載に明らかなるが如く、該屬の重要な特徴と一致せず。即ち〔1〕3本の顔周刺毛 (Orbitals) の中

最上部の毛は、頭頂刺毛 (Verticals) 3 本の中の中央の毛よりも顔周刺毛の最下部に近し。〔2〕上膊毛 (Humeral) は 2 本存す。〔3〕背中刺毛間の間刺毛は 6 列存す。〔4〕前縁脈は第 3 脈にて終らず第 4 脈まで延長す。故に本種は當然 *Drosophila* 屬の一新種ならんと思考せられしを以て、之れが報告を爲さんとするに當り、念の爲桑山覺博士並に加藤靜夫氏に本種を送りて、スパキシヨウジョウバへの標本 (Holotype) と比較を煩したるところ、兩氏の好意により、圖らずも同種にして、昆虫大圖鑑の記載は原記載なりとの回答を得たり。

依て本種の學名並に和名を下記の如く改定せり。

學名 *Drosophila suzukii* (Matsumura)

和名 オウトウシャウジョウバへ 櫻桃猩々蠅 (新稱)

和名を改稱したるは、普通櫻桃實蠅、又は櫻桃猩々蠅として知られ、加害甚だしき害虫なるを以て、一般に櫻桃害虫なることを認識せしむるに適當なりと思推したればなり。

III 形 態

1、成 虫

體長約 2.5^{mm} 暗黄褐色なれども、個體に依り着色に多少の差異あり、秋季のものは比較的大形にして黒色を帯ぶること多し。

頭部、頭部は胸部より幅稍廣く、頭頂の中央部灰色を帯ぶるも、一般に黄褐色にして刺毛は黒色なり。複眼に接し左右各顔周刺毛 3 本頭頂刺毛 3 本あり。又單眼の前部 1 個の兩側、後部 2 個の後方に各 1 對の單眼刺毛在り。後頭部の内方は黒色を帯ぶ。複眼は大にして美しき赤褐色を呈す。單眼は黄褐色にして著しく光澤あり。觸角の第 1 節は極めて短く 0.04^{mm} 淡黄色を呈し、數本の黒色なる刺毛を横列す。第 2 節は稍大にして 0.12^{mm} あり、黄褐色にして、大小 15 本位の黒色なる刺毛を粗生す。第 3 節は最も長く 0.18^{mm} 長橢圓形にして灰色の軟毛を密生し、一見灰黄褐色を呈す。端刺は黒く細長にして 0.34^{mm}、其の背側に 5 本、

腹側に3本の細長なる枝と、且つ短細なる小枝を生ず。觸角間は稍隆起し、口吻は淡黄褐色を呈し短小、長さ0.32 mm あり。

胸部 胸背は膨出し、略長方形を爲し、兩側の中央より稍上部に於て窪む。黄褐色を呈するも、兩側及び中央部は黑色を帶ぶ。多數の短小なる間刺毛 (Acrosticals) は黒褐色にして前胸背にては15條位に縦列し、2對の背中刺毛間に於ては間刺毛は5乃至6列あり。胸部側面に生ぜる刺毛は黑色にして著しく強大なり。上膊毛は2本存す。小盾板は略3角形を爲し、平滑にして黄褐黑色を帶び、強大なる2對の刺毛は黑色にして、1對は前方に近き兩側に1對は後端に生ず。

翅 翅は長大にして全面に細毛を密生す。透明なるも、幾分灰色を帶び、基部稍濃色にして中央淡色に、翅端は漸次濃厚となる。虹様光澤強し。翅端に近く前縁に添ひ、翅幅の3分の1に達する (長さ0.5 mm 幅0.28 mm) 略長方形を爲せる黑色の斑紋を有す。翅脈は黄褐色、前縁脈は3を過ぎ4に達し、横脈間の距離は後室の長さの半より短し。平均棍は淡黄色を呈す。

脚 脚は細長にして暗黄色を爲し、跗節の末端は稍濃色にして2本の黒褐色にして長さ0.032 mm の爪を有す。多數の刺毛を生じ普通暗褐色を爲し、各節末端のものは稍長大なり。前脚は最も短く脛節0.6 mm 轉節0.14 mm 腿節0.68 mm 脛節0.6 mm 跗節0.6 mm あり。脛節末端に於ける數本の刺毛は特に大きく黑色をなし、内2本は最も強大にして1本は0.1 mm 他は0.07 mm あり。

跗節中其の第1節は最も長く、0.16 mm にして其の末端の前方に特別なる4本の強く、且つ灣曲せる、黑色の刺毛を併列し、其の長さ0.04 mm あり。第2節は之に次で長く0.12 mm にして、其の末端に第1節の如く特別なる2本の刺毛併出す。第3節は0.09 mm 第4節は0.05 mm 第5節は0.09 mm あり。中脚の脛節末端の刺毛は前脚に似るも、一層強大なり。後脚脛節の刺毛は前二者に於けるが如く強からず。跗節の長さは前脚に似、第1節最長にして0.34 mm 第2節0.2 mm なり。

腹部 腹部は卵形にして、尾端は腹面に垂下し、背面より5節を算し得べく、全体に黄褐又は黒褐色の刺毛を粗生す。背部は淡褐色にして、各節の後部は黑色を呈す。第4節は黑色部廣く、第5節は殆ど黑色にして光澤あり。一見漆黑色を

呈す。2個の尾端の突起は陥入して、上部よりは認むること困難なり。腹面は淡黄色にして、尾端は黒色をなし、交尾器を認め得べく、1對の攫握器は能く發達し、黒褐色をなせる大小多數の鋸齒狀並に鈎狀の突起あり、其の附近には刺毛を生ぜるを見る。

雌蟲 雌は其の形雄より遙に大なり、躰の色彩は黒色を帯ぶること少なく、腹部の背面各節の黒帶も其の幅狭し。翅は淡き暗褐色を帯び、翅端に至るに従ひ、漸次濃厚となる。黒色の斑紋は之を認め難し前脚の第1並に第2跗節末端に併出せる強き刺毛無し。腹端の突起は大きく、背面及側面より之を見らる。産卵器は大きく、鋸形を爲し、2枚より成り、其の後半を露出し、腹面よりは勿論、側面よりも之を見らるべく、其の長さ0.48^{mm}にして體長の約1割2分に相當す。色は赤褐にして33本の刺は黒褐を爲し、短かく、太く、強くして、末端に至るに従ひ漸次強大となり、腹面に向ひ鋸齒狀に配列し、其の先端の2個は特に長大にして、長さ0.004^{mm}あり。其の内側には別に1本の異りたる形狀を成せる淡黄色、細長の刺毛を生じ長さ0.031^{mm}あり。

測定 時期並に食料を異にせる幼虫より生ぜる成虫、各10頭に就き測定せる平均左の如し。

調 査 別			雄			雌		
時 期	幼虫食餌	大 小	体 長	翅ノ開張	翅ノ長さ	体 長	翅ノ開張	翅ノ長さ
			耗	耗	耗	耗	耗	耗
6 月	櫻 桃	平 均	2.25	5.80	2.15	2.65	6.55	2.65
		最 大	2.50	6.50	2.50	3.00	7.50	3.00
		最 小	2.00	5.00	2.00	2.00	6.00	2.50
10 月	葡 萄	平 均	2.75	6.03	2.38	4.00	7.32	2.92
		最 大	3.50	6.70	2.70	4.50	8.30	3.50
		最 小	2.50	5.20	2.00	3.50	6.70	2.70

2、卵

卵は乳白色にして光澤あり。長徑0.5^{mm} 短徑0.2^{mm} 長橢圓形にして、一端に小突起あり。其の稍内方に同個所より、2本の紐狀の附屬物を生ず。紐の長さ0.4^{mm}あり。

3、幼 虫

孵化當時のものは小形白色にして、成長せるものは長さ 5.5 mm 幅 0.8 mm に達す。頭部に細まり 12 環節蛆状なり。皮膚には光澤あり、透明なるを以て内臓物を透し、略淡黄色をなす。頭部の先端に口あり。黒色を爲せる口器の先端にある爪状部は長さ 0.09 mm 強固にして腹面に灣曲し、其の内方は鋸齒状を爲す前呼吸器官は第 1 第 2 環節の境界部の両側に生じ、先端は 7 乃至 8 本に別れ淡灰褐色にして、先端のみ赤褐色なり。後部呼吸器官は 1 對にして腹部末端に突出し赤褐色を呈す。各環節の表面には短かき多数の刺を生じ、腹面に殊に多く、且つ大にして赤褐を帯ぶ。末節には腹面に 2 對、側背に各 1 對、大小の突起ありて歩行の際使用する。

4、蛹

蛹は赤褐色にして紡錘状を爲す。蛹鞘は幼虫の皮膚にして、頭部の両側に前呼吸器官の突出して成れる 2 對の角状突起あり。其の先端は更に 7 乃至 8 本に分岐す。腹端の突起及び各環節の刺は幼虫に異ならず長さ 3.5 mm 幅 1.2 mm あり角状突起 0.015 mm 角状突起の分岐 0.015 mm あり。

V 經 過

1、發生回数並週年經過

本種に關する經過に就き、山梨縣に於て調査せるところに依れば、成虫態を以て越年 3 月頃より出現し、5 月中旬櫻桃早生種「日ノ出」に産卵し、下旬には中生種「黃玉」に産卵す。櫻桃に於て 6 月下旬までの間に 2 回乃至 3 回世代を反復して著しく繁殖し、次で野生の「クサイチゴ」「キイチゴ」等に好んで寄生し、又桃、李の熟果、落果等にも寄生す。更に 8 月頃よりは葡萄、熟柿等に寄生して、茲に又著しく繁殖をなすも 10 月末より寄生果實の減少と、氣温の低下とに依り

成虫の数を減じ11月頃より落葉の間、其他適當の潜所に入りて越冬す。

越冬成虫の産卵は、自然状態に於ては5月、櫻桃又は「ストロベリー」に於て行はるゝものゝ如きも、飼育せるものに於ては、貯藏葡萄を與ふる時は、櫻桃成熟期前に2回の世代を經過するを以て1個年15回の世代を經過す。其の最短經過日数は8日間なりとす。

今飼育の成績を示せば下の如し。

(1) 昭和6年飼育成績

世代 回別	産 月	卵 日	孵 月	化 日	蛹 月	化 日	羽 月	化 日	卵期間	幼虫 期間	蛹期間	羽化より 産卵までの 日数	世代 日数	備 考
1	—	—	—	6. 5	—	6.10	—	—	—	—	5	—	—	6月20日採集の幼虫より飼育せり
2	6.12	—	6.14	6.18	6.24	2	4	6	2	4	6	2	14	櫻桃にて飼育
3	6.26	—	6.28	7. 2	7. 7	2	4	5	1	4	5	1	12	同
4	7. 8	—	7. 9	7.14	7.19	1	5	5	2	5	5	2	13	同
5	7.21	—	7.22	7.27	7.30	1	5	3	2	5	3	2	11	同
6	8. 1	—	—	—	8.16	—	—	—	—	—	—	1	10	トマトにて飼育
7	8.11	—	—	—	8.16	—	—	—	—	—	—	2	12	葡萄にて飼育
8	8.22	—	—	—	8.31	—	—	—	—	—	—	1	10	同
9	9. 1	—	—	—	9.11	—	—	—	—	—	—	2	12	梨にて飼育
10	9.12	—	9.14	9.19	9.25	2	5	5	2	5	5	2	14	葡萄にて飼育
11	9.27	—	9.29	10. 8	10.15	2	9	7	3	9	7	3	21	同
12	10.18	—	—	—	11. 5	—	—	—	—	—	—	3	21	同
13	11. 8	—	—	—	11.28	—	—	—	—	—	—	—	—	同

第11飼育世代以後の成虫は翌春まで生存せるも、2月5日の寒氣にて全部斃死せり。

(2) 昭和7年飼育成績 其1

世代 回別	産 月	卵 日	孵 月	化 日	蛹 月	化 日	羽 月	化 日	卵期間	幼虫 期間	蛹期間	羽化より 産卵までの 日数	世代 日数	備 考
1	—	—	—	6. 7	—	6.14	—	—	—	—	7	2	—	6月5日採集の幼虫より飼育す
2	6.16	—	6.17	6.22	6.28	1	5	6	1	5	6	1	13	櫻桃を用ひて飼育
3	6.29	—	6.30	7. 5	7.10	1	5	5	2	5	5	2	13	同
4	7.12	—	7.13	7.18	7.22	1	5	4	2	5	4	2	12	同

世代 回別	産 月	卵 日	孵 月	化 日	蛹 月	化 日	羽 月	化 日	卵期間	幼虫 期間	蛹期間	羽化より 産卵まで の日数	世代 日数	備 考
5		7.24		7.25		7.30		8. 4	1	5	4	2	12	李を用ひて飼育
6		8. 5		8. 6		8.11		8.15	1	5	4	1		同
7		8.16		8.17		8.22		8.27	1	5	5	1	12	同
8		8.28		8.29		9. 3		9. 8	1	5	5	2	12	葡萄を用ひて飼育
9		9.10		9.12		9.17		9.23	2	5	6	1	14	同
10		9.24		9.27		10. 5		10.11	2	5	9	1	21	同
11		10.18		10.21		10.27		11. 7	3	6	10	4	23	同
12		11.11		11.15		11.21		12. 8	4	6	18	—	—	同

第12飼育世代の成虫は産卵を爲さずして越年せるも、室内飼育は翌年2月26日全部斃死し、室外飼育のものは同2月下旬より3月上旬までに大部分斃死し、一部は生存せり。

(3) 昭和7年飼育成績 共2

世代 回別	産 月	卵 日	孵 月	化 日	蛹 月	化 日	羽 月	化 日	卵期間	幼虫 期間	蛹期間	羽化より 産卵まで の日数	世代 日数	備 考
1		—		—		—		6.29	—	—	—	2	—	6月採集の幼虫より飼育せり
2		7. 1		—		—		7.13	—	—	—	2	12	櫻桃にて飼育す
3		7.15		—		—		7.26	—	—	—	2	11	同
4		7.28		—		—		8.15	—	—	—	—	18	同
5		—		—		—		9. 2	—	—	—	—	—	桃にて飼育す
6		9.11		—		—		9.25	—	—	—	5	14	葡萄にて飼育す
7		9.30		—		—		10.16	—	—	—	—	16	同
8		—		—		—		10.25	—	—	—	—	—	同
9		—		—		—		11. 6	—	—	—	157	—	翌春4月12日産卵す

第9飼育世代の成虫は産卵を爲さずして越年し、翌春4月産卵せり。

(4) 昭和8年飼育成績

世代 回別	産 月	卵 日	孵 月	化 日	蛹 月	化 日	羽 月	化 日	卵期間	幼虫 期間	蛹期間	羽化より 産卵まで の日数	世代 日数	備 考
1		4.12		4.14		4.20		5. 1	2	6	11	2	20	貯蔵せる葡萄にて飼育
2		5.10		5.12		5.18		5.23	2	6	5	3	13	同
3		5.29		—		—		6. 8	—	—	—	4	9	櫻桃にて飼育

世代 回別	産 月	卵 日	孵 月	化 日	蛹 月	化 日	羽 月	化 日	卵期間	幼虫 期間	蛹期間	羽化 ^{より} 産卵 ^{まで} の日数	世代 日数	備 考	
4		6.12	—	—	6.19	—	6.24	—	—	—	—	5	1	12	同
5		6.28	—	—	7. 2	—	7. 6	—	—	—	—	4	1	8	トマトにて飼育

2、成虫寿命調査

(1) 昭和7及8年調査

個体 番號	雄						雌					
	世 代 回別	羽 化 年月日	斃 死 年月日	生 存 日 数	食 種	餌 類	世 代 回別	羽 化 年月日	斃 死 年月日	生 存 日 数	食 種	餌 類
1	3	7. 6.29	7. 7.28	29	櫻	桃	3	7.6 .29	7. 7.31	32	櫻	桃
2	3	7. 6.29	7. 7.26	27	同	同	3	7. 6.29	7. 7.27	28	同	同
3	3	7. 6.30	7. 7.14	14	同	同	3	7. 6.30	7. 8. 2	33	同	同
4	—	—	—	—	—	—	3	7. 6.30	7. 7.25	25	同	同
5	—	—	—	—	—	—	3	7. 6.29	7. 8.16	48	同	同
6	—	—	—	—	—	—	3	7. 7. 2	7. 8.15	44	同	同
7	—	—	—	—	—	—	3	7. 7.13	7. 8.10	28	同	同
8	—	—	—	—	—	—	3	7. 7.13	7. 8.17	35	同	同
9	—	—	—	—	—	—	4	7. 7.21	7. 8.31	41	同	同
10	—	—	—	—	—	—	4	7. 7.26	7. 8.15	20	同	同
11	9	7.11. 5	8. 3. 6	121	葡	萄	9	7. 11.5	8. 6.27	234	葡	萄
12	9	7.11. 5	8. 3.26	141	同	同	9	7. 11.5	8. 5. 3	179	同	同
13	—	7.11. 5	8. 2. 8	95	同	同	—	—	—	—	—	—
14	10	7.11.23	8. 3. 4	100	同	同	—	—	—	—	—	—

第11號乃至14號は越冬成虫なり。

(2) 昭和8年調査

個体 番號	雄						雌					
	世 代 回別	羽 化 月日	斃 死 月日	生 存 日 数	食 餌 種 類		世 代 回別	羽 化 月日	斃 死 月日	生 存 日 数	食 餌 種 類	
					幼 虫	成 虫					幼 虫	成 虫
1	1	5. 5	6.11	37	葡 萄	櫻 桃 果	1	5. 1	6.11	41	葡 萄	櫻 桃 果
2	1	5. 6	6.29	54	同	同	1	5. 5	6.30	56	同	同

個体 番號	雄						雌					
	世代 回別	羽化 月日	斃死 月日	生存 日數	食餌種類		世代 回別	羽化 月日	斃死 月日	生存 日數	食餌種類	
					幼虫	成虫					幼虫	成虫
3	1	5.10	5.31	21	同	同	1	5.6	6.29	54	同	同
4	1	5.14	6.1	18	同	同	1	5.10	6.28	49	同	同
5	1	5.15	6.2	18	葡萄	同	1	5.14	6.30	47	同	同
6	1	5.15	6.1	17	同	同	1	5.15	6.20	36	同	同
7	1	5.15	6.9	25	同	同	1	5.15	6.11	27	同	同
8	1	5.15	6.9	25	同	同	1	5.14	6.25	42	同	同
9	1	5.15	6.9	25	同	同	1	5.14	6.26	43	同	同
10	—	—	—	—	—	—	1	5.14	6.29	46	同	同
第一飼 育世代 平均	—	—	—	27	—	—	—	—	—	44	—	—
1	2	5.24	6.21	28	苹果	櫻桃 トマト	2	5.23	6.26	34	苹果	櫻桃 トマト
2	2	5.24	6.11	18	同	同	2	5.23	6.29	37	同	同
3	—	—	—	—	—	—	2	5.24	6.26	33	同	同
4	—	—	—	—	—	—	2	6.29	7.9	10	同	櫻桃
5	—	—	—	—	—	—	2	6.30	7.7	7	同	同
第二飼 育世代 平均	—	—	—	23	—	—	—	—	—	24	—	—
1	3	6.8	6.14	6	苹果	櫻桃 トマト	3	6.8	6.29	21	苹果	櫻桃 トマト
2	3	6.8	6.17	9	同	同	3	6.8	6.29	21	同	同
3	3	6.8	7.2	30	同	同	3	6.8	7.2	30	同	同
4	3	6.10	6.29	19	同	同	3	6.10	6.29	19	同	同
5	3	6.8	6.28	20	同	同	3	6.8	6.29	21	同	同
6	—	—	—	—	—	—	3	6.8	6.29	21	同	同
7	—	—	—	—	—	—	3	6.10	7.2	22	同	同
8	—	—	—	—	—	—	3	6.17	6.26	9	同	同
第三飼 育世代 平均	—	—	—	17	—	—	—	—	—	21	—	—
1	4	6.23	6.30	7	櫻桃	櫻桃 トマト	4	6.23	6.29	6	櫻桃	櫻桃 トマト
2	4	6.24	7.2	6	同	同	4	6.24	6.30	6	同	同
3	4	6.29	7.2	3	同	同	4	6.23	7.2	9	同	同
4	4	6.29	7.2	3	同	同	4	6.29	7.2	4	同	同
5	4	6.29	7.6	7	同	同	4	6.29	7.2	3	同	同
第四飼 育世代 平均	—	—	—	5	—	—	—	—	—	6	—	—
1	5	7.8	7.14	6	櫻桃	トマト 桃	5	7.7	7.16	9	櫻桃	トマト 桃
2	5	7.9	7.11	2	同	同	5	7.8	7.18	10	同	同

個体 番號	雄						雌					
	世代 回別	羽化 月日	斃死 月日	生存 日數	食餌種類		世代 回別	羽化 月日	斃死 月日	生存 日數	食餌種類	
					幼虫	成虫					幼虫	成虫
3	5	7.9	7.13	3	同	同	5	7.8	7.16	8	同	同
4	5	7.10	7.16	8	同	同	5	7.8	7.17	9	同	同
5	5	7.8	7.16	8	同	同	5	7.8	7.18	10	同	同
第五飼育世代平均	—	—	—	5	—	—	—	—	—	9	—	—

本調査の結果飼育器中に於ても、成虫は相當長く生存するを知る。

3、産卵數調査

年度	世代 回別	個 体 番 號							平 均	果實の種類
		1	2	3	4	5	6	7		
昭和6	1	362	224	95	—	—	—	—	227	櫻 桃
7	2	60	22	41	81	131	21	160	74	同
9	1	194	291	234	158	223	243	199	220	同
同	4	78	146	170	11	—	—	—	101	葡 萄 (コンコード)
同	5	164	31	88	41	49	—	—	75	同
同	6	91	141	163	25	—	—	—	105	同
同	7	42	205	191	163	—	—	—	150	同

1匹の産卵數最少11個より多きは362個なり。

4、卵 期 調 査 昭和7年

世代 回別	個 体 番 號										平 均	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
	日時	日時	日時	日時	日時	日時	日時	日時	日時	日時	日時	分
2	1.10	1.10	1.09	1.08	1.12	1.09	1.15	1.16	—	—	—	1.11.08
3	1.10	1.17	1.10	1.11	1.15	1.12	1.08	1.05	1.06	—	—	1.10.20
4	1.04	1.15	1.12	1.13	0.23	1.00	1.01	0.21	0.20	0.22	—	1.03.30
5	0.23	1.01	1.01	1.03	1.01	1.01	1.01	1.00	1.01	0.22	—	1.00.36
6	0.20	0.21	0.21	0.20	0.20	0.21	0.20	0.21	0.21	0.21	—	0.20.36
7	0.21	0.24	0.25	0.25	0.26	—	—	—	—	—	—	1.00.10
8	1.10	1.10	2.20	1.10	1.20	1.12	—	—	—	—	—	1.17.40

世代 回別	個 体 番 號										平 均
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
9	2.00	2.20	2.20	2.01	2.02	2.01	2.00	1.20	2.19	—	2.06.33
10	3.00	2.22	3.05	3.02	3.01	3.00	—	—	—	—	3.01.00
11	3.10	3.02	3.20	3.02	3.12	3.03	—	—	—	—	3.08.10

最短時間 20 時間にて孵化し普通 1 日内外最長は 3 日 20 時間を要したり。

5、幼虫期調査 昭和 7 年

世代 回別	個 体 番 號										平 均
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
2	5.22	5.22	5.06	5.07	5.03	5.06	5.05	5.05	—	—	5.09.30
3	5.00	4.00	4.07	4.06	4.05	4.08	5.01	5.04	5.03	—	4.14.26
4	4.13	4.05	4.08	4.07	4.22	4.21	4.20	4.17	4.18	4.16	4.14.42
5	5.04	5.02	5.02	5.00	5.01	5.01	5.01	4.16	4.15	4.18	4.22.48
6	4.01	4.00	4.01	4.01	4.01	4.00	4.02	4.00	4.00	4.00	4.00.36
7	4.20	4.22	4.21	4.19	4.17	—	—	—	—	—	4.15.00
8	4.20	4.22	4.21	5.00	4.22	4.20	—	—	—	—	4.21.30
9	5.01	5.03	5.02	5.00	5.00	5.01	5.00	5.00	5.00	—	5.00.46
10	5.01	5.02	5.02	5.06	5.07	5.08	—	—	—	—	5.04.20
11	5.15	5.03	5.09	5.02	5.08	5.04	—	—	—	—	5.06.50

本調査に於ては最短 4 日普通 4 日乃至 5 日最長 5 日 15 時間なりき。

6、蛹期調査 昭和 7 年

世代 回別	個 体 番 號										平 均
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
2	6.00	6.00	6.00	6.01	6.00	6.00	6.00	6.07	—	—	6.01.00
3	5.00	5.14	4.21	4.21	5.12	5.14	4.05	4.22	4.22	—	5.01.13
4	4.14	4.14	4.14	4.14	4.15	4.15	4.15	4.18	4.18	4.18	4.15.30
5	4.15	4.15	4.15	4.15	4.19	4.15	4.15	4.15	4.16	4.16	4.15.36
6	4.02	4.02	4.02	5.03	5.03	5.21	5.21	5.21	4.02	5.02	3.17.30
7	5.00	5.04	5.05	5.12	5.12	—	—	—	—	—	5.06.36
8	4.01	4.00	4.06	4.06	4.07	5.23	—	—	—	—	4.11.10

世代 回別	個 体 番 號										平 均
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
9	6.23	8.01	7.22	7.01	8.02	8.02	8.02	7.19	—	—	7.18.53
10	8.23	9.23	8.22	10.17	9.18	9.18	—	—	—	—	9.16.10
11	16.01	16.01	16.01	15.01	17.01	16.01	—	—	—	—	16.01.00

本調査に於ける最短は3日2時間普通4日乃至5日最長17日1時間なり。

7、羽化より産卵までの日数調査

昭和7年

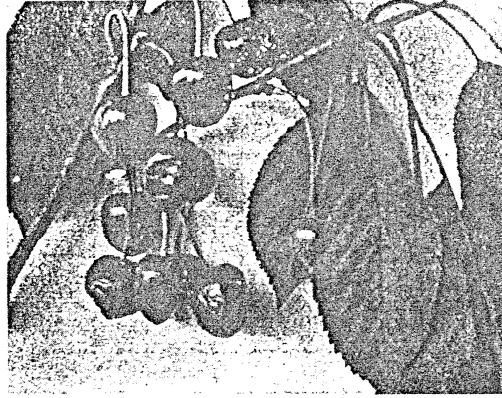
世代 回別	個 体 番 號										平 均
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
2	1.07	1.06	2.02	2.01	2.01	2.01	1.20	2.03	—	—	1.17.53
3	1.04	1.08	2.22	2.22	2.07	2.05	2.22	2.05	2.05	—	2.05.46
4	1.07	1.07	1.07	1.08	1.07	1.07	1.07	1.07	1.07	1.07	1.07.06
5	1.20	1.20	1.07	1.07	1.01	1.07	1.07	1.06	1.06	1.05	1.03.33
6	1.06	1.20	1.20	1.21	1.22	1.04	1.03	1.03	1.03	2.02	1.14.12
7	1.09	1.20	1.18	1.19	1.19	—	—	—	—	—	1.17.00
8	2.06	2.03	1.21	1.23	1.22	2.07	—	—	—	—	1.21.40
9	2.02	1.07	1.06	1.03	1.03	1.04	1.04	1.04	1.05	—	1.06.53
10	4.04	4.02	4.04	3.04	3.07	3.08	—	—	—	—	3.16.50
11	4.01	4.00	4.20	3.01	3.02	3.01	—	—	—	—	3.13.10

本調査に於ける最短は1日普通1日乃至2日最長4日20時間にして、産卵を開始す。

Ⅵ 習 性

成虫は羽化後1日乃至2日にして交尾し、直ちに産卵す。櫻桃の着色し幾分甘味を生じ、未だ充分熟せざる頃より、完全果に産卵器を挿入して、1回に1卵づつ皮下に産入し、果外に附着せる2本の紐状物を出す。1果に1個より多きは15個位を産附す。風通り悪しき下枝に特に多く産卵するも、高所にも亦産卵し、收穫して果實少量となれば、殆ど全部へ産卵を見ることあり。

櫻桃の過熟果に多く産卵せらるゝが如く考へられたるも、寧ろ完熟のものに産卵多く、稍未熟なるものにも相當に産卵するを以て、經濟上の損害頗る多し。其の萎凋せる果實、腐敗果、傷あるものには産卵するを好まず、他に適當の果實無き場合に産卵す。



被害果並に被害部より蛹の頭部を現したる狀

今、試験の成績を示せば、下の如し。

1、櫻桃の熟度と産卵並に經過試験

昭和7年

試験 回別	櫻桃の 熟度	産卵 月日	産卵 粒数	孵 化 月日	蛹 化 月日	羽 化 月日	羽化 数	卵期	幼虫期	蛹期	羽化より	産卵より
											産卵まで の日数	羽化まで の日数
		月日		月日	月日	月日		時	日時	日時分	時	日時分
1	過熟	6. 2	18	6. 4	6. 9	6.15	15	24	5. 0	6.07.00	24	13.07.00
	完熟3日前	6. 3 後3時	18	同	後3時30	同	15	23	7. 8	6.00.30	24	14.08.30
	稍未熟	同 後2-4時	5	同	同	同	—	—	—	—	—	—
2	未熟	同	4	同	同	同	—	—	—	—	—	—
	過熟	6. 4 前10-後4時	15	6. 5	—	—	—	—	—	—	—	—
	完熟3日前	6. 4 前10-後3時	12	同	6.10 前8時	6.15 前8時30	3	23	5. 6	6.00.20	24	13.05.20
3	稍未熟	同	12	同	6.13 前8時	6.18	1	23	8. 6	6.00.00	24	15.05.00
	未熟	同	1	同	同	同	—	—	—	—	—	—
	過熟	6. 5 前10-後4時	5	6. 6	6.11 午後	6.16 正午	5	24	5	5.00.00	24	12.00.00
平均	完熟3日前	同	14	同	同	6.16 午前	10	24	5	4.18.00	24	11.18.00
	稍未熟	—	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	未熟	—	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平均	過熟	—	12	—	—	—	10	24	5. 0	5.15.30	24	12.15.30
	完熟3日前	—	15	—	—	—	9	23	6. 1	5.14.17	24	13.02.37
	稍未熟	—	6	—	—	—	0	23	8. 6	6.00.00	24	15.05.00
	未熟	—	2	—	—	—	0	22	—	—	—	—

本試験に於て産卵は未熟のものよりなすも、果の酸味強き程度のものにては發育充分ならず。完熟3日前頃即ち櫻桃を市場に販賣せんが爲め、收穫する熟度の

ものには最も多く産卵し、且發育し、過熟之に次ぐ。

2、櫻桃の處理方法と産卵試験

昭和8年

試験回別	櫻桃の品種	處理方法	産卵數	備考
1	那翁	完全果	11	果は2日にて腐敗す 剥皮せざる部分に産卵す
		剥皮果	0	
		半剥皮果	1	
2	那翁	完全果	12	傷面に産卵せず、何れも其の反面に産卵す
		傷附果	35	

本試験に於て櫻桃には剥皮せる部分に産卵を見ず。

3、櫻桃の完全果と腐敗果との産卵比較試験

年度	月日	試験別	調査回別				平均
			1	2	3	4	
昭和6年	7.5	完全果	39	13	2	7	15.25
		收穫後日を経て萎凋せるもの	13	8	10	4	8.75
	7.7	完全果	14	—	—	—	14.00
		收穫後日を経て萎凋せるもの	15	—	—	—	15.00
昭和8年	7.14	完全果	182	—	—	—	182.00
		收穫後日を経て萎凋せるもの	11	—	—	—	11.00
	6.15	完全果	5	—	—	—	5.00
腐敗果		0	—	—	—	0	

本試験に於て萎凋果に完全果より多く産卵せる1例あるも、多くは完全果を好みて産卵を爲すを見たり。

VII 寄主植物

本虫の寄主植物に就き調査並に試験せるところ下の如し。

1、 野外採集果實に於ける寄主調査

昭和7年

果實の種類	採集月日	採集地	採集個數	發生虫數
ストロベリー	6.23	甲府市伊勢町	15	31
郁李	6.24	西山梨郡相川村	18	0
山櫻	6.28	甲府市伊勢町	5	6
胡頹子	7.4	中巨摩郡龍王村	28	72
桑椹	7.7	富士山麓	20	30
木苺	7.7	同地	7	1

2、 寄主植物の調査並試験

自然に寄生するを認め、更に飼育産卵せしめて其の寄生を完ふし得る植物（果實）下の如し。

(1) 完全果に寄生する果實

「ストロベリー」、「マハレブチェリー」、櫻桃、吉野櫻、山櫻、野苺、木苺、郁李、胡頹子、桑椹、葡萄。

(2) 落果若くは果實の損傷部に寄生する果實

苹果、桃、トマト、李、柿、枇杷、杏。

VIII 櫻桃の被害歩合調査

採集期	産地	品種名	採集の分	總果數	被害果	健全果	被害率
採月日 6.6.5	中巨摩郡 西野村	養老	下枝1本	38	29	9	76%
6.7.5	南都留郡 勝山村	奈翁	同	100	62	38	62
同	同	同	下枝2本	200	40	54	23
7.6.2	西山梨郡 甲運村	黄玉	收穫果	150	45	105	30
7.6.8	東八代郡 相興村	同	同	80	4	76	5

採集期	産地	品名	採集の分	総果數	被害果	健全果	被害率
年月日 7. 6.25	東八代郡 相興村	奈翁	收穫果	200	160	40	80%
9. 6.22	同	同	下枝1本	120	90	30	75
7. 7.18	同	同	市場販賣品	152	31	121	2
7. 7. 2	福島縣	同	同	100	24	76	24
7.6.下旬	同	同	同	38	16	22	42
7. 7.18	中巨摩郡 西野村	同	同	152	31	121	21
7.7.上旬	福島縣	同	同	130	61	69	47
同	福島縣信夫郡瀬上町	同	同	96	13	83	14
同	山形縣	同	同	177	55	122	31

K 食餌誘殺試験

(1) 昭和6年誘殺試験 6月16—25日 容器は1—20販賣品月見型、21は富士型を用ふ

餌料の種類	誘殺頭數		計	1日平均
	雄	雌		
1、糖蜜	20倍	0	0	0
2、黄ザラ	同	0	0	0
3、日本酒	同	7	4	11
4、葡萄酒	同	1	1	2
5、櫻桃酒	同	8	5	13
6、醋酸	同	0	0	0
7、シトラネルオイル	同	0	0	0
8、ゼラニーオール、エキストラ	同	0	0	0
9、ゼラニーオール、ピー	同	0	0	0
10、ベルガモットオイル	同	0	0	0
11、櫻桃果汁	5倍	0	0	0
12、糖蜜混用日本酒	糖蜜 20倍 日本酒 10倍	27	17	44
13、糖蜜混用葡萄酒	糖蜜 20倍 葡萄酒 10倍	34	37	71
14、糖蜜混用櫻桃酒	糖蜜 20倍 櫻桃酒 10倍	32	31	63
15、糖蜜混用醋酸	糖蜜 20倍 醋酸 10倍	16	20	36
16、糖蜜混用シトラネルオイル	糖蜜 20倍 シトラネルオイル 10倍	3	2	5

餌料の種類					誘殺頭数		計	1日平均
					雄	雌		
17、糖蜜混用セラニール エキストラ	}	糖蜜 20倍	10	}	0	0	0	0
		セラニール・エキストラ	1					
18、糖蜜混用セラニール ビー	}	糖蜜 20倍	10	}	0	0	0	0
		セラニールビー	1					
19、糖蜜混用ベルガモットオイル	}	糖蜜 20倍	10	}	9	5	14	1.6
		ベルガモットオイル	1					
20、糖蜜混用日本酒、醋酸	}	糖蜜 20倍	8	}	29	28	57	6.3
		醋酸 20倍	1					
21、同		同			9	6	15	1.7

本試験に用いたる葡萄酒は自家醸造のものにして、幾分醋酸醱酵をなしたるものなるが、其の成績によりて見れば、此の葡萄酒を混用せる糖蜜液最も誘殺数多く、之に次ぐは櫻桃酒を混用せるものなり。

(2) 昭和9年誘殺試験

7月5日—12日

月見型 2個
改良月見型 1個

餌料の種類					誘殺頭数		計	1日平均	
					雄	雌			
1	}	糖日食 本用	蜜酒酢 20倍	10 容	}	1	8	9	1.3
				1					
2	}	糖日食 本用	蜜酒酢 20倍	10	}	10	9	19	2.7
				3					
				1					
3	}	糖日食 本用	蜜酒酢 20倍	10	}	5	9	14	2.0
				5					
				1					
4	}	糖食荷 用荷	蜜酢酒 20倍	10	}	7	7	14	2.0
				1					
				1					
5	}	糖食荷 用荷	蜜酢酒 20倍	10	}	8	8	16	2.3
				1					
				3					
6	}	糖食荷 用荷	蜜酢酒 20倍	10	}	10	26	36	5.1
				1					
				5					
7	}	糖日食 本用	蜜酒酢 20倍	10	}	0	7	7	1.0
				1					
				3					
8	}	糖日食 本用	蜜酒酢 20倍	10	}	8	11	19	2.7
				1					
				5					

本試験に於ては糖蜜に混用せる場合、自家醸造生葡萄酒の量を増したるもの誘殺数最も多かりし。

X 誘殺器應用試験

食餌誘殺試験の結果相當有効なるを知りたるを以て、西野村及相興村に於て之れが應用試験を行ひたり。

容器は月見型を用ひ全村櫻桃樹の成木に各1個宛用ふ。西野村に於ては昭和7年度總個數 3000 個、昭和8年度 3500 個、昭和9年度 4000 個を使用し食餌は糖蜜20倍液に1割の自家製葡萄酒を混用せるものを用ひ、相興村に於ても之に準じたり。

其の成績に就ては、野外にして廣範圍の事とて詳細に之を知るを得ざるも、市場の批評は西野村最も良好にして、他の産地に比し蛆害は殆ど稀なりとの結果を得たり。

今同一時期に於て特に誘殺器を用ひざる他産地と比較調査せる成績を示せば、下の如し。

年 度	誘殺器使用の有無	産 地	使用開始月 日	調査月日	櫻桃品種	寄生果歩合
7	使 用	中巨摩郡 西野村	5.11	6.2	黄 玉	0.0
	無 使 用	西山梨郡 甲運村	—	同	同	30.0
	同	東八代郡 祝 村	—	同	同	20.0
	同	東八代郡 相興村	—	同	同	5.0
	同	東山梨郡 奥野田村	—	同	同	2.0
8	使 用	中巨摩郡 西野村	5.15	同	同	0.0
	無 使 用	東八代郡 富士見村	—	同	同	20.0
	同	東八代郡 相興村	—	同	同	10.0
9	使 用	中巨摩郡 西野村	5.15	同	同	0.0
	同	東八代郡 相興村	5.14	同	同	0.0
	無 使 用	西山梨郡 甲運村	—	同	同	25.0
	同	東八代郡 一宮村	—	同	同	20.0

XI 櫻桃の冷蔵と猩々蠅の生死との關係試験

櫻桃を普通果實と同様冷蔵する時は、本虫の生死と果實に對し如何なる影響ありやを知らんが爲め、昭和7年度中府電力株式會社製氷部冷蔵庫に於て、特に一定時間内に産卵せしめたる櫻桃を供用し試験せり。其の成績下の如し。

1、幼虫に對する試験

試験回別	産卵月日	試験番號	冷蔵時間	冷蔵庫 温度(C)	冷蔵月日	終了月日	産卵數	生存蛆數
1	7. 1	1	—	—	—	—	40	36
	〃	2	24	1.7—2.2	7. 2	7. 3	69	12
	〃	3	48	〃	〃	7. 4	60	11
	〃	4	72	〃	〃	7. 5	17	10
2	7. 8	5	—	—	—	—	13	12
	7. 8	6	48	1.7—2.2	7. 9	7.11	52	8
	〃	7	72	〃	〃	7.12	25	0
	〃	8	96	〃	〃	7.13	71	0
3	〃	9	120	〃	〃	7.14	35	0
	7.10	10	—	—	—	—	15	14
	〃	11	24	1.1	7.11	7.12	44	34
	〃	12	48	〃	〃	7.13	56	8
4	〃	13	72	〃	〃	7.14	35	3
	7.18	14	—	—	—	—	40	11
	〃	15	24	-0.6—0.0	7.20	7.21	45	7
	〃	16	48	〃	〃	7.22	30	5
	〃	17	72	〃	〃	7.23	30	2
	〃	18	96	〃	〃	7.24	11	0

2、卵に對する試験

試験回別	産卵月日	試験番號	冷蔵時間	冷蔵庫 温度(C)	冷蔵月日	終了月日	産卵數	生存數
	7. 2	1	—	—	—	—	25	20

試験回別	産卵月日	試験番號	冷蔵時間	冷蔵庫 温度 (C)	冷蔵月日	終了月日	産卵數	生存數
1	7. 2	2	24	1.7—2.2	7. 2	7. 3	11	2
	〃	3	48	〃	〃	7. 4	22	12
	〃	4	72	〃	〃	7. 5	9	1
2	7. 7	5	—	—	—	—	18	16
	〃	6	48	1.7—2.2	7. 7	7.11	13	2
	〃	7	72	〃	〃	7.12	83	0
	〃	8	96	〃	〃	7.13	77	0
	〃	9	120	〃	〃	7.14	33	0
3	7.11	10	—	—	—	—	32	17
	〃	11	24	1.1	7.11	7.12	24	4
	〃	12	48	〃	〃	7.13	67	7
	〃	13	72	〃	〃	7.14	60	1
4	7.20	14	—	—	—	—	27	17
	〃	15	24	-0.6—0.0	7.20	7.21	53	22
	〃	16	48	〃	〃	7.22	36	2
	〃	17	72	〃	〃	7.23	57	0
	〃	18	96	〃	〃	7.24	64	0

本試験に依れば、冷蔵時間の長さに従ひ漸次斃死虫數を増加し、96時間即ち4晝夜なる時は卵及幼虫（蛆）を全死せしめ得たり。櫻桃の品質に對しては甚だしき悪影響を及ぼさざるが如し。

XII 摘 要

- 1、大正5年以來山梨縣産櫻桃に蛆害多く、飼育の結果猩々蠅 (*Drosophila*) 屬の一種なるを認め、昭和4年頃より本虫の被害甚だしく、經濟上の關係著しきを認めたるを以て、同6年より特に之が研究を爲したり。
- 1、調査の結果櫻桃の生果に寄生する猩々蠅 (*Drosophila*) 屬は本種のみにして、其の他は第2次的に寄生するものなるを知る。山形、福島、長野縣産のものは同種なり。

- 1、 スバキシヨウジヨウバへは本種と同種なるを知り、屬種名並に和名を改定せり。
- 1、 飼育の結果週年経過 15 世代。櫻桃期中 2—3 世代にして、成虫態にて越冬す。1 世代の最短は 8 日間なり。
- 1、 成虫の壽命は 20—56 日にして、越冬成虫には 234 日生存のものあり。
- 1、 1 雌虫の産卵数は 11 個より 362 個 1 日の最多産卵数は 38 個にして、繁殖力旺盛なり。
- 1、 本種は活物寄生性にして、好んで完全果の稍未熟のものより寄生發育す。傷害果、腐敗果に寄生するは完全果のなき止むを得ざる場合なるが如し。
- 1、 防除方法として、食餌誘殺は有効なり。食餌の種類は糖蜜 20 倍液に葡萄酒又は櫻桃酒の混合液を可とし、酒類の混合量は多きを可とす。
- 1、 卵並幼虫は果實類冷蔵の普通溫度にて、4 晝夜間にて斃死せり。

XIII 防除上の注意

以上の成績により、防除上、下記の点に注意し實行すれば、本虫の被害を著しく軽減し得べし。

- 1、 5 月上旬より誘殺器を用ひ越冬成虫の時より誘殺を爲すこと。
- 2、 誘殺器は筆者の注意により月見型の窓を小形にせるものあれば夫を用ふること。
- 3、 食餌は乾燥せざる中に取り更ふることは勿論、又液面の浮遊物を除き本虫の落下を容易ならしむること。
- 4、 櫻桃の採り残りを樹に留むることなく、又落果、選果の際生ずる不良果を放棄せず、之より成虫の發生せざるやう、適當



月見型誘殺器

なる處分を爲すこと。

- 5、寄生果は蛆の發育せざる前に加工用とし或は4日以上冷蔵すること。

(参考文献並氣象調査省略)

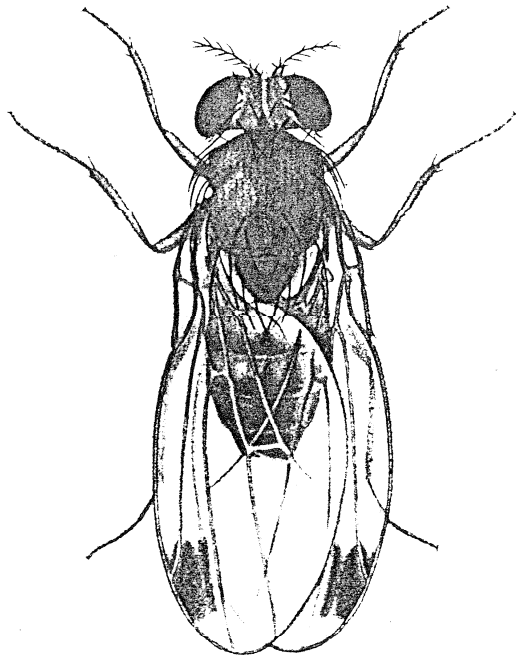
第 1 圖 版 說 明

1、雄 成 虫 (約 19 倍に廓大)

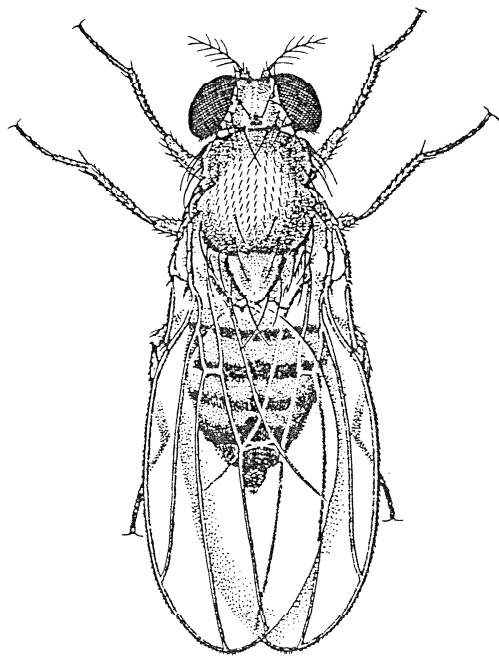
2、雌 成 虫 (約 14 倍に廓大)

(秋葡萄時期發生虫)

第 1 圖 版



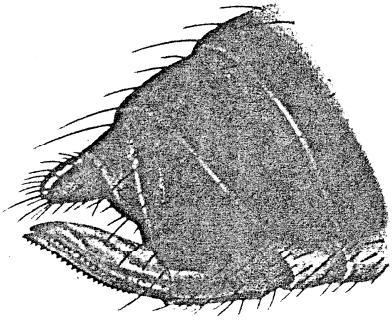
1



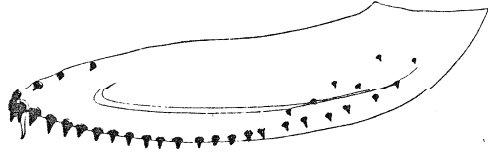
2

第 2 圖 版 説 明

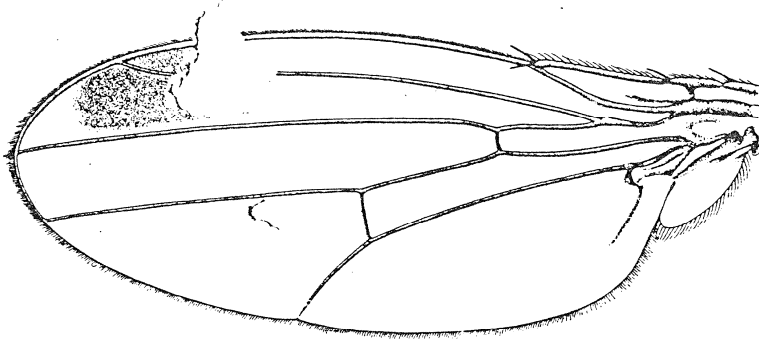
- | | |
|-------------|--------------|
| 1、雌 成 虫 腹 端 | (約 45 倍に廓大) |
| 2、同上 産卵器の側面 | (約 139 倍に廓大) |
| 3、雄 成 虫 翅 | (約 21 倍に廓大) |
| 4、同上 跗 節 | (約 21 倍に廓大) |
| 5、卵 | (約 30 倍に廓大) |
| 6、老 熟 幼 虫 | (約 10 倍に廓大) |
| 7、蛹 | (約 13 倍に廓大) |



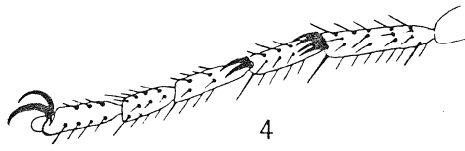
1



2



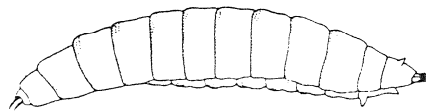
3



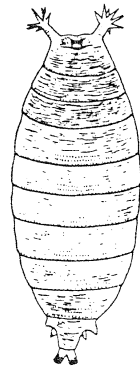
4



5



6



7

昭和9年10月20日印刷

昭和9年10月25日印刷

山梨縣立農事試驗場

中丘摩郡貢川村

甲府市代官町42

印刷人 星 野 豊 造

甲府市代官町42

印刷所 星 野 印 刷 所